

# 職リハ学会通信

No.170 2022年 6月発行

## 目次

第49回宮城大会のご案内	1P
運営理事会報告	7P
委員会報告	8P
ブロック活動報告	9P
会員投稿・報告	10P
事務局からのお知らせ	12P

## 第49回宮城大会のご案内

### 第49回宮城大会の速報！

皆さま、こんにちは。宮城大会実行委員会からのお知らせです。第49回宮城大会の全体プログラムが決定しました。愛知大会に続き、オンデマンド配信（2022/8/25（木）-2022/9/11（日））とライブ配信（2022/8/27（土）-2022/8/28（日））により開催します。集合研修が難しいゆえ、今大会では、ライブ配信数をさらに充実させました。オンライン開催ではあ

りますが、皆さまと少しでも対話しながら、広がりある時間になればと思っています。大会参加申込の締め切りは、8/3（水）となっております。

プログラムをご確認の上、お早めにお申し込みください。全国からたくさんのご参加をお待ちしております。

1. オンデマンド配信プログラム 8月25日(木)～9月11日(日)

【基調対談】

テーマ	登壇者
職業リハビリテーションにおける立場性を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第49回大会大会長 相澤 欽一 氏</li> <li>・社会福祉法人太陽の家 山下 達夫 氏</li> </ul>

【理事会主催：鼎談】

テーマ	登壇者
根拠に基づく職業リハビリテーションの実践と研究 ―高等教育機関における人材育成を踏まえて(仮)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北福祉大学副学長(日本評価学会会長) 大島 巖 氏</li> <li>・学会副会長(大妻女子大学) 小川 浩 氏</li> <li>・学会会長(埼玉県立大学) 朝日 雅也 氏</li> </ul>

【国際委員会主催：国際シンポジウム】

テーマ	登壇者
米国における職業リハビリテーション及び就労支援の実際：実践と教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■進行 横浜やまびこの里 柴田 珠里氏</li> <li>■話題提供者 NYS Education Department Office of Adult Career and Continuing Education Services - Vocational Rehabilitation 飯島 信子 氏 バージニアコモンウェルス大学 岩永 可奈子 氏</li> </ul>

【研修委員会主催：教育講座】

■講座 A

テーマ	講師
職業リハビリテーションの基礎アセスメントを中心に	秋田大学 前原 和明 氏

■講座 B

テーマ	講師
事例報告・事例研究をやってみよう	常磐大学 若林 功 氏

【大会主催ワークショップ】

ワークショップ名	登壇者
就労支援と相談支援 ～相談支援機関における就労相談のあり方～	<ul style="list-style-type: none"> <li>■進行 ・仙台市自閉症相談センター 西田 有吾 氏</li> <li>■助言者 ・たかはま障がい者支援センター 小松 邦明 氏</li> <li>■話題提供者 ・ワークライフスクウェア 山谷 宗一 氏 ・アクセスジョブ仙台 角濱 友哉 氏 ・ワークスペース歩° 歩° 高橋 辰徳 氏</li> </ul>

<p>みのりある職場実習のために ～企業の現状と支援者の役割～</p>	<p>■進行 ・チャレンジドジャパン仙台中央センター 西田 いづみ 氏</p> <p>■助言者 ・社会福祉法人ほっと福祉記念会 鈴木 康弘 氏 ・株式会社大場製作所 大場 俊孝 氏</p> <p>■話題提供者 ・株式会社チャレンジドジャパン 三浦 剛 氏 ・LITALICO ワークス 林田 元太氏 ・障害者就業・生活支援センターわ～く 北川 進 氏 ・株式会社アイエーオートボックス 藤沼 紀行 氏</p>
<p>安定した職業生活を継続するための支援 ～地域生活支援の視点から～</p>	<p>■進行 ・スイッチ センダイ 田口 雄太 氏</p> <p>■助言者 ・国際医療福祉大学/那須フロンティア 野崎 智仁氏 ・ジョブジョイントおおさか 星明 聡志 氏</p> <p>■話題提供者 ・グッジョブ 齋藤 淳子 氏 ・石巻地域就業・生活支援センター 加藤 志穂 氏</p>

2. ライブ配信プログラム 8月27日(土)～8月28日(日)

【政策委員会主催ワークショップ】

ワークショップ名	企画者	話題提供者
『雇用と福祉の連携強化検討会』の議論のその後を読み深める	法政大学 眞保 智子 氏	倉知 延章 氏 酒井 大介 氏 朝日 雅也 氏 小川 浩 氏 鈴木 康弘 氏

【自主ワークショップ】

ワークショップ名	企画者	話題提供者
てんかんのある人の就労 ～多様性の理解と具体的な雇用就労への支援方法を探る～	明治学院大学 青柳 智夫 氏	中里 信和 氏 藤川 真由 氏 浪久 悠 氏 遠田 千穂 氏
就労前アセスメントで就労の可能性をはかることはできるのか？	コミュニネット楽創 本多 俊紀 氏	山口 創生 氏 築島 健 氏 松為 信雄 氏 井上 希実 氏 大川 浩子 氏
「生きる力」を育むプログラム ～自分で将来を選択できるようになるワークブック～	横浜メンタルサービス ネットワーク 鈴木 弘美 氏	羽田 舞子 氏 金山 正恵 氏 渡部 恵梨子 氏 吉成 広美 氏

支援から学ぶ職業リハビリテーション ーキャリア支援のための実践知と技術ー	秋田大学 前原 和明氏	今井 彩氏 神田 康貴氏 宇野 京子氏 松為 信雄氏
ASDのある就労者のメンタルヘルスを 語る ～過剰適応・カモフラージュ・ バーンアウトへの理解と支援～	横浜市発達障害者 支援センター 柴田 珠里氏	千田 若菜氏 Chin Catherine氏 小川 浩氏
職業リハビリテーションカウンセリング の体系化に向けて	神奈川県立保健福祉大学 松為 信雄氏	鈴木 修氏 湯沢 由美氏 岡 耕平氏
障害者の雇用と「働く」ことの意味 ー共生社会への道ー	国立障害者リハビリ テーションセンター 清野 絵氏	壁谷 彰慶氏 菊地 建至氏 高岡 英氣氏 堤 英俊氏 渡 正氏
職業リハビリテーション分野における 応用行動分析（ABA）及び臨床行動分析 （ACT）の効果的な活用について	スタートライン 菊池 ゆう子氏	小林 咲氏 森島 貴子氏 瀬津 博之氏 芻田 文記氏

#### 【研究・実践発表】

##### ■視覚障害・聴覚障害・身体障害全般

口頭発表者	標題
筑波技術大学 竹下 浩氏	視覚障害者の事務スキル発達支援における GTA-AR法の提案
筑波大学大学院 松田 えりか氏	職業的自立を目指す視覚障害者のソーシャル・ キャピタルとコミュニケーションスキルとの関連 ー視覚特別支援学校職業課程在籍者に対するアンケ ート調査からー
筑波技術大学 後藤 由紀子氏	聴覚障害のある社会人の再就職・転職を目的とし たリカレント教育プログラムの実施
国際医療福祉大学/那須フロンティア 野崎 智仁氏	就労支援に関連した身体障害領域における作業療法 報告事例の分析

##### ■職業生活の継続（精神障害・発達障害）

口頭発表者	標題
帝京科学大学 三木 良子氏	精神障害者が働きがいのある労働環境 ーインタビュー調査による分析ー
常磐大学 若林 功氏	職場の合理的配慮及び関連要因が精神障害者の職業 継続に及ぼす効果 ～半構造化面接の結果から～
群馬パース大学 馬場 順子氏	精神障害者の就労継続に影響を与える主観的認識： 混合研究法
就労移行支援事業所ワークアシスト 飯塚 菜緒氏	関係機関連携による職場定着と生活の安定を 目的とした取り組み

##### ■企業・農業

口頭発表者	標題
長野大学 片山 優美子氏	長野県上小圏域における障がい者雇用に関する 事業所アンケート調査の報告

兵庫教育大学/大阪精神障害者就労支援ネットワーク 池田 浩之 氏	障害者雇用と企業の雇用環境に関する研究 (3) ～中小企業を対象として～
農林水産省 農林水産政策研究所 付 直江 秀一郎 氏	農園型障害者サテライト雇用と障害者雇用促進法の理念等との整合性に関する一考察
農研機構西日本農業研究センター 中本 英里 氏	農作業等に従事する障害者の身体活動量確保の可能性

### ■自閉スペクトラム症

口頭発表者	標題
大阪精神障害者就労支援ネットワーク 屋敷 千晴 氏	就労移行支援における自閉スペクトラム症のある方を対象とした認知行動的介入プログラムの効果の検討
医療法人社団 ながやまメンタルクリニック 千田 若菜 氏	ASD 特有のバーンアウトとメンタルヘルス
大阪精神障害者就労支援ネットワーク 五屋 真由子 氏	職場適応感向上プログラムの開発に向けて —自閉スペクトラム特性が高いと想定される者を対象に—
就労支援センター グッジョブ 齋藤 淳子 氏	成人期に診断を受けた自閉スペクトラム症者に対する就労定着後の支援課題の検討 —主観的 QOL とグループ活動の記録から—

### ■就労支援の様々な側面 (1)

口頭発表者	標題
特定非営利活動法人 Switch 坂下 直也 氏	自団体へ日本版個別型援助付きフィデリティ調査した際の所感と課題
大阪精神障害者就労支援ネットワーク JSN 研究所 實盛 朱里 氏	発達障害のある方の保護者を対象とした「家庭でできる就労支援講座」の効果について
筑波大学 佐々木 銀河 氏	発達障害の特性に応じた対処法を自動提案するチャットボットのユーザビリティ
旭川大学 木下 一雄 氏	VR 空間における障害者就労の可能性に関する考察 —デジタル技術に特化した高収益化を目指すマーケット開拓—

### ■事例報告

口頭発表者	標題
就労移行支援事業所コンポステラ 齋藤 彰太 氏	「諦め」から「希望」へ ～就労移行支援事業所を利用した A 氏の就職活動を通して～
就業・生活相談室からびな 船本 修平 氏	就労希望する入院患者の退院後を見据えた福祉機関との連携とその可能性
中伊豆リハビリテーションセンター 障害者支援施設さわらび 久野 誠 氏	障害者支援施設を経て復職に至った高次脳機能障害を呈する一事例
共同生活援助 グループホームのぞみ 早坂 輝俊 氏	医療観察法対象者における地域移行支援についての実践について

■就労支援の様々な側面 (2)

口頭発表者	標題
京都大学公共政策大学院修士 /神戸学院大学 市原 尚子 氏	生活保護受給者の出口政策に関する一考察 ～就労困難者のキャリア形成視点より～
仁多学園島根リハビリテーション学院 金弦 敬子 氏	就労支援における作業療法士の関わり方
北海道文教大学/コミュニティ楽創 大川 浩子 氏	就労支援機関管理職から見た人材育成の現状と課題 －アンケート調査から－
福岡県立大学 廣田 久美子 氏	ドイツ就労支援の近年の動向と課題

■アセスメント・支援ツール

口頭発表者	標題
秋田大学大学院 教育学研究科 今井 彩 氏	特別支援学校における現場実習の評価表が果たす アセスメント機能
障害者職業総合センター 武澤 友広 氏	就労支援のためのアセスメントシート（試作版）の 開発
北海道医療大学 宮本 雅央 氏	就労支援ネットワークにおける職務分析チェック リストの活用可能性
高齢・障害・求職者雇用支援機構 田村 みつよ 氏	職業リハビリテーションツール伝達のプログラム 評価の試み

■知的障害

口頭発表者	標題
秋田県立大曲支援学校 阿部 哲哉 氏	知的障害特別支援学校生徒の自己理解の促進に 向けた自己省察ツールの開発と効果検証： 一般就労を希望する高等部生徒を対象とした 授業実践から
埼玉県立大学 富田 文子 氏	企業就労における知的障害者の低賃金に関する 一考察
筑波大学大学院 門下 裕子 氏	就労移行支援事業所および就労継続支援 A 型・B 型 事業所における知的障害者の性的行動に対する 職員の意識と支援の課題
福山平成大学 矢野川 祥典 氏	コロナ禍で危惧される生徒の「困りごと」を踏まえた 現場実習の在り方 ～知的障害特別支援学校の進路指導に基づいて～

宮城大会実行委員長 西田 有吾  
(仙台市自閉症相談センター)



## 2022年度 第1回運営理事会 報告

1. 日 時 5月8日(日)13:00~16:00
2. Web 審議
3. 出席者
  - 運営理事 : 朝日、小川、倉知、相澤、大川、大島、金、眞保、野崎、星明、前原、山口
  - 事務局 : 藤原
  - 欠席者 : 柴田、八重田、若林

### 1. 会務報告

- ・ 会員数は、正会員 640 名、賛助会員 6 団体。
- ・ 2022 年度の入会希望者 17 名について承認を得た。
- ・ 2021 年度末の退会希望者 27 名、除名者 25 名について承認を得た。
- ・ 住所不明者 19 名について、理事内で知っている者がいるか確認を行った。

### 2. 各委員会からの報告および審議事項

#### ○ 総務・企画委員会

- ・ 2021 年度活動報告（案）を確認した。
- ・ 2021 年度収支決算（案）を確認した。
- ・ 2022 年度活動計画（案）を確認した。
- ・ 2022 年度収支予算（案）を確認した。
- ・ 大会プレ企画助成費予算を 5 万円から 10 万円へ変更することについて承認された。
- ・ 今年度総会にて、松為信雄氏を名誉会員に提案することについて承認された。

#### ○ 学会誌編集委員会

- ・ 2021 年度活動報告（案）を確認した。
- ・ 2022 年度活動計画（案）を確認した。
- ・ 36 巻 1 号の構成内容について報告した。
- ・ 36 巻 2 号で取り上げる内容のアイデアについて意見交換を行った。

#### ○ 広報委員会

- ・ 2021 年度活動報告（案）を確認した。
- ・ 2022 年度活動計画（案）を確認した。
- ・ 職リハ学会通信 169 号（3 月号）の発刊及び、デザインを変更したことについて報告した。
- ・ 職リハ学会通信 170 号（6 月号）の原稿

依頼を行った。

- ・ 学会案内チラシの内容やデザインについて見直しや修正など検討した。活用方法についても委員会でさらに検討する。
- ・ メーリングリストについて、現在参加希望者の ML の登録後、ML 内で紹介メールを行っているが、メールアドレスの紹介はしないこととした。
- ・ ICT サポート部門を前回の理事会で設置することとなり、現在、宮城大会の開催に向けて業者との打ち合わせへの同席、過去の大会の情報提供を行っている。今後、より専門的知識のある会員に参加していただくことも検討していく。

#### ○ 研究・倫理委員会

- ・ 2021 年度活動報告（案）を確認した。
- ・ 2022 年度活動計画（案）を確認した。
- ・ スタートアップ助成(旧若手助成)の応募がなかった。今後、利用しやすくする方法や広報の方法など委員会内で検討していく。また、倫理チェックを 1 つ追加し、修正を行った。
- ・ スタートアップ助成過去の若手助成に関するリストを学会ホームページへ掲載した。
- ・ 宮城大会申込時の倫理的配慮について、抄録集原稿作成要領に、「8. 倫理的配慮の記載について」という項目を追加した。
- ・ 大会奨励賞について、オンデマンド配信での質疑応答方法、及び、審査方法を google フォームで行うで行うなどの確認を行った。

- ・ 閉会式で授賞式を行うため、受賞対象となる登壇者へは、メールで閉会式へ残っていただく旨伝えることを確認した。
- 政策委員会
- ・ 2021 年度活動報告（案）を確認した。
  - ・ 2022 年度活動計画（案）を確認した。
- 国際委員会
- ・ 2021 年度活動報告（案）を確認した。
  - ・ 2022 年度活動計画（案）を確認した。
  - ・ 海外からの宮城大会参加を想定して、大会ホームページの一部英訳を行った。
  - ・ 宮城大会での国際シンポジウムの準備状況について報告した。
- 研修委員会
- ・ 2021 年度活動報告（案）を確認した。
  - ・ 2022 年度活動計画（案）を確認した。
3. 第 49 回(宮城)大会について
- ・ 大会ホームページで参加及び演題申込の受付を開始した。
- ・ 演題申込数が少ないため、演題発表の声かけを運営理事が行うこととした。
  - ・ 参加申し込みの周知の方法について確認を行った。
  - ・ オンデマンドプログラムの字幕の有無について検討した。
  - ・ 大会ホームページへのオンデマンドプログラムの掲載は、5 月時点で原稿の決定を考えている。
  - ・ 大会ワークショップでの取り上げるテーマで取り上げる内容の情報提供を呼び掛けた。
  - ・ 政策委員会主催のシンポジウムを行うことを確認した。
4. 第 50 回（神奈川）大会について
- ・ 2023 年 8 月 25 日・26 日（会場:神奈川県立保健福祉大学）で現在調整を行っている。
  - ・ 開催方法は集合形式を検討している。
- その他
- ・ 次年度、運営理事会について  
2022 年 8 月 13 日（土）13 時～16 時  
ブロック理事も参加し、理事会を行う。

## 委員会報告

### ○ 広報委員会

学会通信について、前号よりデザインをリニューアルしました。読者に学会の情報が届きやすいように、引き続き、見直しを図っていきます。ホームページについては、現在のデザインとなってから、内容の見直しや、各部門からの要請に応じて新規ページの創設などを行っ

てきました。現在、スマートホンなどの対応化に向けて、業者と協議中ですが、まずは現在のホームページ内容の整理や統合などを図り、費用がかからないような工夫をしつつ、検討を続けていきます。

（野崎 智仁）



## ブロック活動報告

### ○ 近畿ブロック

近畿ブロックでは、6月3日（金）に以下の登壇者をお招きして「人材育成」に関する研修会を開催しました。

### ◆ 登壇者

稲葉 健太郎 氏

（名古屋市総合リハビリテーション  
センター 自立支援部長）

浜中 利保 氏

（三家クリニック 医療福祉相談室 室長）

柳田 則子 氏

（東京海上ビジネスサポート（株）

人材活躍推進部 推進役）

小谷 泰政 氏

（株）エンカレッジエンカレッジ京都 所長）

4名のご登壇者からは、ご自身の実践や価値観を交えながら職場での人材育成の取り組みをお話しいただきました。

稲葉さんからは人材育成計画の取り組みを法人の経営理念と重ねてお話しいただき、「良い経験が良い成長につながる」、「他者を認め自分を認めることの大切さ」を教えてくださいました。

また、浜中さんからは医療の立場でお話しいただき、個性の力を活かしてチームのパフォーマンスを上げることに努めておられることを教えてください、柳田さんからは企業の立場で特例子会社における指導員の人材育成

に関する取り組みを具体的な実践をわかりやすく教えてくださいました。

4人目の小谷さんからは、就労移行支援事業所における人材育成をプレイヤー育成、マネージャー育成を中心にお話しいただき、1on1ミーティングで手厚いサポートに取り組んでおられることをお話しいただきました。

後半は、兵庫教育大学の池田さんに論点整理をしていただき、その後は4人のご登壇者とディスカッションをして前半の内容を深掘りする流れで進め、会場からもたくさんの質問が出ていました。

人材育成は、ご登壇者4名のお話がそれぞれであったように、所属する組織の理念や文化、取り組む事業内容によって育成方法に違いがあり、福祉・医療・産業などの立場によっても育成方法は多様であることがわかりました。

閉会後の参加者アンケートでも「人材育成に悩むことが多い」「最近、管理職になって育成について考えることが増えた」と、職リハ従事者が人材育成を考える機会が多いようで、参加された方にとって何かの参考になっていたら嬉しく思っています。

近畿ブロックでは、年に1回は研修会を開催したいと思っていますので、次回の内容も検討を進めていきたいと思えます。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

（近畿ブロック 星明聡志）

### 特別支援学校における進路決定に至るまでの現場実習のプロセス

#### 1. 特別支援学校における進路指導

特別支援学校では、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的・組織的に進路指導を行っている。主に高等部で実施している産業現場等における実習（以下「現場実習」）は、実際的な知識や技術に触れることを通して、生徒が自らの職業適性や将来設計について考え、主体的に職業選択や職業意識を育成する機会となっている。そのため、知的障害のある生徒のキャリア形成において非常に重要であることから、現場実習は特別支援学校高等部における進路指導の大きな柱となっている。

#### 2. 秋田県特別支援学校における現場実習

秋田県には特別支援学校が15校あり、そのうち知的障害を主とする特別支援学校は12校である。このうち6校の進路指導主事を対象に、3年間を通じた進路決定に至るまでの現場実習のプロセスについて調査するため、グループインタビューを実施した。その結果、「①働くことを知るための実習」「②選択肢を広げるための実習」「③進路を決めるための実習」「④卒業後への円滑な移行を図るための実習」と、3年間にわたる現場実習のプロセスが4段階になっていることが明らかとなった。

「①働くことを知るための実習」では、働くために必要となる力について知ることができるよう、校内で模擬会社をつくり、働く力を育成するための校内実習を実施している。また、現場実習に行く前段階として1日～3日間の職場体験を実施し、働くことを体験することで、将来的に働きながら暮らすことをイメージできるようにしている。

「②選択肢を広げるための実習」では、進路選択のために生徒が様々な職種や仕事内容についての知識を増やし、色々な仕事への理解を深められるようにしている。そのため、可能な限り本人の希望を聞き取りながら様々な職種で実習を重ねることで、本人が納得できる進路選択ができるよう、定期実習（2～3週間に渡り、学部全員の生徒が行う実習）を計画している。

「③進路決めるための実習」では、求められる様々な条件と折り合いを付けながら進路決定の意志を固められるよう、生徒本人の「ここで働きたい」という合意形成を図るための現場実習を実施している。

「④卒業後への円滑な移行を図るための実習」では、進路決定の目処が立った段階で、就労先との関係性を構築するために個別実習（個別で行う現場実習）を実施し、移行支援の体制を整えている。

ここでは以下に、これまでの実践事例を統合する形で知的障害のあるAさんの架空事例を用い、この現場実習のプロセスの実際を紹介する。

#### 3. Aさんの事例

特別支援学校高等部に在籍するAさんは、中学校時代は通常学級に在籍していた。そのため特別支援学校で行っているような作業学習といった働く素地を育むための学習経験はなかった。ただ漠然と、中学校時代の介護福祉施設でのインターンシップの経験から介護福祉施設で働くことを希望していた。

##### ① 働くことを知るための実習

入学して初めて経験した高等部1年生の校内実習では、木工、縫製、清掃といった作業を行った。この作業学習は、10日間にも渡る初めての長い実習であった。この実習は、Aさんにとって疲れる体験であった一方で、実習後の振り返りからは、働くため上で必要となる基礎体力、そして、報告、連絡などのコミュニケーションを学ぶことの必要性を理解することにつながったと考えられた。

その後も、職業に関する学習や職場見学を行った後、11月に実施する現場実習の希望職種についての検討を行った。この希望職種の検討での相談では、実習経験の振り返りを教師からのフィードバックを交えて行うことで、Aさんは、自分が臨機応変に物事に対応することが苦手で、どちらかというと同じ作業を繰り返し行うことが得意であるということ整理していった。

この整理を踏まえて、最終的に、Aさんは、

実習先として一連の定型的な流れで作業を行う生産工程の職種での現場実習を選択した。

## ② 選択肢を広げるための実習

Aさんの現場実習先は、コンビニエンスストアで提供している食品を製造する工場となった。その工場では、Aさんは、サンドイッチのパッケージにシールを貼る作業を繰り返し行ったり、納豆巻きの製造ラインに入って検品作業を行うこととなった。

実習中は教員も同行し、指導等を補った。シール貼り作業については、1時間でどのくらいの数を達成できたか記録することで、その記録が伸びることへの達成感を感じるように支援した。また、当初ライン作業のスピードに、Aさんがついていくことができなかつたため、実習担当者だった副工場長と一緒に作業練習に取り組んだ。作業練習により、Aさんは、コツをつかむことができ、一人で十分な作業をこなすことが可能となった。

現場実習終了の学校で行った振り返りでは、副工場長とのやり取りを積み重ねた経験を踏まえて、「どのような仕事であっても、人とコミュニケーションをとる力を高めなければいけないこと」を実感しているとの発言がみられた。

## ③ 進路を決めるための実習

これまでの現場実習などを踏まえて、Aさんと、学校生活においては、様々な人に対して自分から積極的に関わりをもつことを目標として決めた。

2年生の現場実習では、自分の経験の幅を広げるため、当初希望していた介護福祉施設で介護補助の仕事を行ったり、スーパーで野菜のパック詰めや品出しを行ったりした。現場実習や、職場見学を繰り返し、様々な仕事を見たり経験したりした中で、最終的にAさんは工場でのライン作業が自分に一番合っているのではないかと考え、3年生の春には、再度、1年生のときに行った工場での現場実習を行った。

1年生の実習時に比べ、作業スピードが上がり、長時間の立ち作業にも集中力を切らさず耐えられるようになっていた。Aさん自身も、自分の成長を体感することができたようであった。また、副工場長からも、その成長ぶりの評価をもらえ、この工場で働くことへの自信

が高まっていったようであった。

Aさんとの実習の振り返りでは、このような実習での経験を通じて、自分のことを理解したようで、常に励ましてくれる副工場長の存在や、繰り返しの作業の中でも、自分なりにやりがいを見出せる仕事だと感じたことが語られた。幸いにも、この工場が自宅から徒歩圏内の職場であったことなどから、Aさんは、この食品製造の仕事をも自分の進路先として選択した。

## ④ 卒業後への円滑な移行を図るための実習

Aさんのことを高く評価してくれた副工場長は、これまでの実習で経験してきた製造ラインと違う場所での仕事も覚えることで、8時間の勤務シフトでの雇用を前向きに検討してくださった。そこで、Aさんは、3年生の秋頃から雇用に向けて2週間の個別実習を2回実施した。1回目の実習は、他の製造ラインでの仕事を覚えることを目的とし、2回目の実習は8時間のシフト制の仕事に慣れることを目的とした。

副工場長はAさんと同じ製造ラインに立つ従業員にAさんへの理解を求め、Aさんが働きやすい環境づくりにも努めてくれた。副工場長の他の従業員への関わりにより、Aさんが向上心をもって仕事に取り組んでいる様子が他の従業員にも伝わり、Aさんに声を掛けてくれる従業員も増えていった。これにより、副工場長以外の人とも良好な関係を築いていくことができた。

このような現場実習を通して、Aさんは、その工場での内定を得た。卒業後、Aさんは、嬉しそうに8時間の勤務を開始している。

## 4. 現場実習を通じたキャリア形成に向けて

「①働くことを知るための実習」「② 選択肢を広げるための実習」「③進路を決めるための実習」「④卒業後への円滑な移行を図るための実習」は、森脇が示す4つのキャリア形成のステージにそれぞれ合致している<sup>1)</sup>。このようなプロセスを経て、特別支援学校の生徒は進路決定を行っていると考えている。

現場実習は、将来の自分の姿をイメージしながら自己選択・自己決定を繰り返すことができる教育機会である。生徒のキャリア形成を促進するためには、教育活動全体でキャリア教育の視点を持ち、生徒が日々の学習の成

果を現場実習で発揮できるようにすることが大切だと思われる。

参考資料

1) 森脇 勤「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック 第7章キャリア教育の今後の展望」,株式会社ジアース教育新社(2012),247

(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校  
今井 彩)

連絡先 : imai-aya0314@outlook.jp

## 事務局からのお知らせ

新規入会者 (2022.3.14-2022.4.30) ※敬称略

◇北海道ブロック 齋藤 彰太

◇東北ブロック 西田 いづみ

◇関東ブロック 渡邊 文人、牧 利恵、松田 えりか、三浦 道弘、佐々木 銀河

◆ 後藤 和之、中村 勇樹、宮内 久絵、桑木 裕貴、佐藤 みのり

◆ 田村 耕、須田 涼太、河埜 康二郎

◇近畿ブロック 田中 文隆、大畑 知萌香

事務連絡

☆ 2022 年度の年会費の入金をお願いいたします。振込用紙の期限が切れている方は、事務局までご連絡ください。

☆ 連絡先などに変更のある方、メールアドレスの登録または変更のある方は変更届の提出を必ずお願いいたします。変更届はメール、FAX または郵送にて事務局まで送付してください。

正会員 : 640 人、賛助会員 : 6 団体 (令和 4 年 4 月 30 日現在)

## 編集後記

6 月 3 日に開催した近畿ブロック研修会では、対面開催にしたことで大阪地域の皆さんと久々にお会いすることができました。参加者の皆さんも再会を楽しんでおられ、閉会後も名刺交換や近況報告などが会場のあちこちで盛り上がり、こういった様子を目にするのもとても久しぶりの気持ちになりました。

対人援助の仕事は人相手の仕事ですし、人が好きなことで成り立つ仕事でもあるように感じ、対面開催にこだわって良かったのかなと自己満足しておりました。

引き続き、近畿ブロックで研修会を企画・開催していきたいと思っております。

(星明聡志)

編集担当者：野崎智仁・前原和明・大島みどり・添野裕太・木村友一・星明聡志

★投稿、提案、情報提供を歓迎いたします。下記のホームページ、または事務局まで  
学会ホームページ：<http://vocreha.org/>  
メール：[jsvr\\_webmaster@yahoo.co.jp](mailto:jsvr_webmaster@yahoo.co.jp)

発行所：事務局 〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台 2-3-1  
九州産業大学 人間科学部 倉知研究室気付  
[shokuriha\\_jimukyoku@yahoo.co.jp](mailto:shokuriha_jimukyoku@yahoo.co.jp)

郵便振替口座番号：00100-2-544296  
加入者：日本職業リハビリテーション学会

発行人：朝日雅也（日本職業リハビリテーション学会会長）  
編集人：星明聡志